

文化芸術による地域経済活性化モデルのためのパイロット事業

仮宿アートプロジェクト
～オリーブ園から始まる地域未来ビジョン～

株式会社CREAFARM

目次

- 1.はじめに
- 2.パイロット事業における主体および関係メンバー
- 3.背景
 - 事業主体クレアファームの取組
 - これまでの経緯ほか
- 4.各プロジェクトの報告
 - KARIYADO ART PROJECT①
 - KARIYADO ART PROJECT②
 - KARIYADO ART PROJECT③
- 5.アートプロジェクトの記録

1.はじめに

3ヶ月の事業期間を終えての雑感

「アーツカウンシル」「アートプロジェクト」は一般人には馴染みがない言葉である。そのため地域づくりやビジネスの現場にはまだまだ浸透していない。

しかし本事業を終えて、「アート×地域」の大いなる可能性を関係者全員が実感し、モチベーションも上がった。その結果、以前にも増して主体的な関わりが始まった。

アーティスト各氏のナビゲートは素晴らしく、人々の感性を刺激し内面にあるアート＆クリエイティブな感覚を覚醒させ、コトに向かわせた。地域やビジネスの将来について、それまで見えていなかったポテンシャル発見の連続となった。本事業のエントリー時には想像していなかった人と人、人と街、地域とビジネス、の新しい関係を認識することとなった。本報告は、事業3ヶ月間の実績が中心となるが、事業期間で得た学びから本当の成果が出るのは、事業終了後からではないか。アーティスト各氏に導いていただいた「地域×ビジネス×アート」の考え方をベースに成果物を活用しながら、日本全国どこにもないまちづくり、新しいビジネス機会の創出など、新しい価値づくりに繋げていけるものと確信している。

3人のアーティスト、3つの成果

本事業では3人のアーティストによる3つのアートプロジェクトを実施した

①地域を新たな視点で見る、発想することを導いたアーティスト

仮宿プロジェクトは長い時間軸の中で積み上げていく事業である。アートの力で地域や新ビジネスを作っていくためには、メンバーの中にアートプロジェクトの意味や地域事業におけるアートの可能性を理解することが重要であった。ベースの考え方を身に付けないと単なるイベントで終わってしまいがちだ。結果としてアーティストが私達から普段思ってもない言葉を引き出し、それをまた新しい言葉に変換しながら、新たな視点を引き出していくプロセスそのものが興味深く、大きな成果となった。

②ゼロから考え創り出す（自由農園プロジェクト）アーティスト

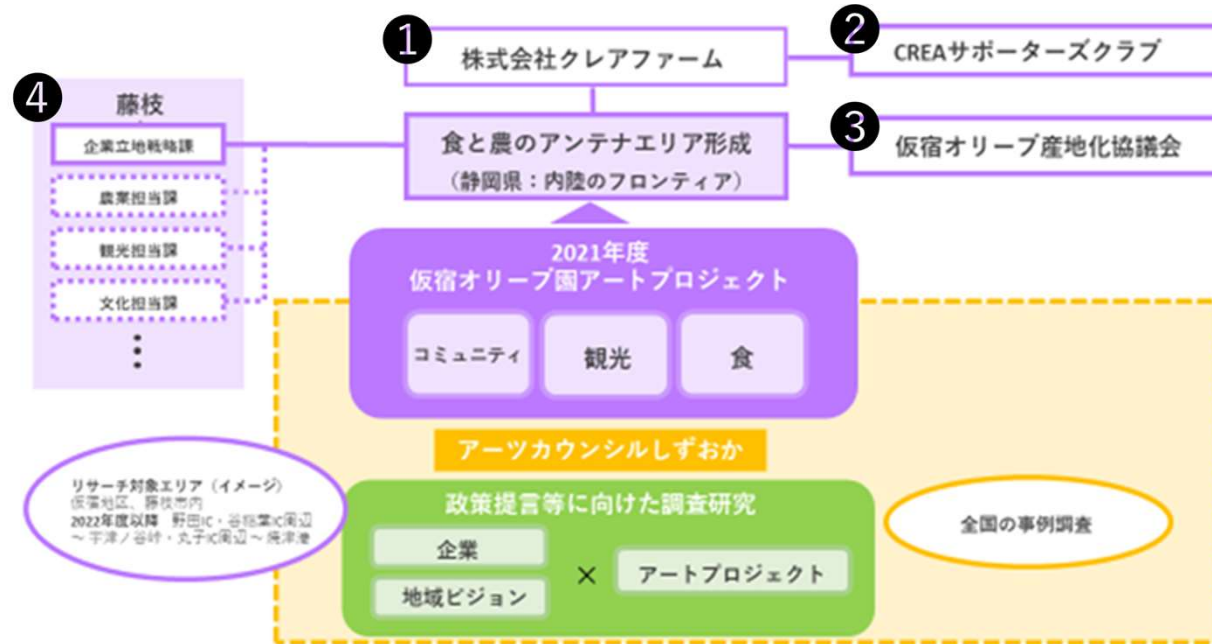
風景の中に違和感なく存在している耕作放棄畑をアート作品に。アーティストによる多様な投げかけにより、自然との付き合い方、地域の食文化、各自の人生経験などから様々な言葉が導かれ、多様な感性が繋がり興味深い事業となった。本期間中に自由農園の「考え方」のベースが出来上がり、園設計にも着手できた。この場所に外から訪れる人の好奇心を掻き立て、誰もが参加できるプロジェクトに育てる予定である。

③ステークホルターが創造する未来の姿が見える化にしたアーティスト

仮宿プロジェクトは、国内外の大勢の人の関与し、観光やワーケーションなどの関係人口の増加を見込んでいる。そのためにも自分達がどこに向かうのか、また初めて訪れる人がこの場所はどうか、は何を目指しているのかが一目でわかるビジュアルが必要である。そのような議論の中で目指したコンセプトアート制作は、まさにメンバー一体となって取り組み、未来を明確にイメージできる大変貴重な機会となった。アーティストのよる制作途中経過を見ながらも様々な意見が飛び交い、アートプロジェクトの面白さや、それが持つ大きなパワーをメンバー全員が実感することとなった。

2.パイロット事業における主体および関係メンバー

【仮宿オリーブ園アートプロジェクト概要図】



関係者概略

①事業主体

藤枝市より農業振興を目的する事業について誘致を受け、2017年にオリーブ産地化事業着手。
現在4ha 2000本のオリーブを育成中。

②オリーブ事業に賛同しオリーブ園の手入れや地域活性ボランティアとして登録いただいているメンバー（72名）

2021年有志により設立。オリーブ園の草取り、収穫のお手伝いその他地域農業振興に賛同する県内外の一般メンバー
農園ボランティアと取組を応援くださるサポーターで構成されている。

③オリーブ畑地権者とクレアファーム、藤枝市の3者で構成したまちづくり協議会（うち、地権者メンバー15名）

2017年2月に協定締結設立。仮宿地区の発展のため月一の定例会を設け情報交換を継続している。
オリーブまちづくりに関することは、本協議会が主体となって周辺住民への調整なども行う

④藤枝市役所関係部署

本事業の窓口である企業立地戦略課、今後に向けて連携中の農業や観光等の部署

3. 背景 -事業主体クレアフームの取組

(株)クレアフームについて

2015年地方農業の新しいビジネスモデル創出を目的に県内企業7社が発起人となり設立。

- 自社オリーブ園（日本平・藤枝）事業、
 - オリーブオイル専門店の運営
 - 地域産品のプロデュースや農業参入支援
- の3つをメイン事業とする地域活性ベンチャー企業である。

自社オリーブオイルと六次産業化

現在、静岡県内の静岡市清水区日本平と藤枝市仮宿の2か所に直営オリーブ園を運営している。

当初より、海外の著名な専門家・技術者を招致し、世界先端技導入し徹底した管理のもと栽培を行なっている。

2021年実績は10トン。国内でもトップクラスの生産量となった。

また自社オリーブオイルは国際コンクールで連続入賞し、海外メディアでも紹介いただき、都内のミシュランレストランなどでも採用されるほど、国内外にファンを持つ。

自社農園の観光資源化、オリーブ加工品開発、食材使った加工品のプロデュース及び販売など農業を核とした新産業創出（六次産業化）を目的に、地域農業&経済の活性に取り組んでいく。

2022年夏に仮宿オリーブ園に農園レストラン（集客施設）をオープン予定。



六次産業化Product一部



先行した日本平オリーブ園



当該事業・藤枝市仮宿オリーブ園エリア



3. 背景 -これまでの経緯ほか

藤枝仮宿「食と農のアンテナエリア構想」

東名藤枝岡部IC周辺は、多彩なライフスタイルを実現する魅力ある地域づくりを目指す「静岡県内陸フロンティア総合特区」に指定されている。藤枝市はこのエリアを「食と農のアンテナエリア」として位置づけ、農業振興、食の産業づくり、地域資源を活かした交流促進、地域コミュニティの活性を目指している。

地区の概要

【立地】新東名高速道路&国道一号線に隣接し、東名高速道路からは車で5分という交通アクセスは抜群

【地域資源】朝比奈川や朝日山等の自然資源、岡部宿・朝日山城等の歴史文化、静岡大学農学部地域フィールド科学教育研究センター等

【現状】地区全体としては農地が多く、そのほとんどが水田である。朝比奈川に沿った街道沿いに集落と地区南部に生協団地がある。農地の中に工場や宅地が点在している。

オリーブ産地化事業

クレアファームは、2016年藤枝市より誘致を受け、本エリアの中心部4haを農地中間管理機構を通じて52名の地権者より土地を賃借。水田から畑への造成工事を行い、2017年4月に初めての定植を行った。並行して「オリーブでのまちづくり」について藤枝市、地権者代表住民、クレアファームによる「オリーブ産地化協議会」を立ち上げ、食と農を核とした民間主体のまちづくりについて議論を始めた。

協議会での主な議論テーマ

- ・ オリーブ栽培を中心に地域農業活性
- ・ 食と農で楽しむ・都市住民との交流促進
- ・ 女性の力を活かした地域コミュニティの活性化
- ・ 地域六次産業化のプラットフォームとして地域企業と共創による新たなビジネス創出
- ・ 静岡大学や藤枝北高校など教育機関との連携、障がい者雇用など農福連携
- ・ 志太地区中心とした広域でのグリーンツーリズム

現状の課題及びアートプロジェクト計画

- 【課題】
- ・ まちづくり協議は、地元シニア層が主体となっており、若い世代の意見が反映されにくい
 - ・ 3者で将来ビジョンは共有できているものの、それぞれのGoalが少しずつ違うことから、短期的な取り組みについて目線共有が難しい
 - ・ 行政の各部署のスムーズな情報共有（横ぐし）が難しく、足並みが揃いにくい

【アートプロジェクト計画】

- ・ アートのチカラを活用したプロジェクトマネジメント
- ・ これからの取り組みを象徴するような「道かな資源を活用したアート事業」
- ・ 地元の若い世代、行政、訪れる人、皆にプロジェクトの未来をイメージさせるコンセプトアート

KARIYADO ART PROJECT①

街を知り、人を知り、
地域の「これから」を考える

アーティスト 劇作家 石神夏希

アーティストを現地に招き、散策や街歩きしながら、地元民との交流・ヒアリングの中で、「地域」を捉え、プロジェクトメンバーとともに仮宿の未来をイメージ・言語化。

アーティストは初めて訪れる土地をどう捉えるのか、住民にとっては見慣れた風景を表現する言葉の一つ一つに興味深く耳を傾けた。エリアの歴史やそこに住む人々のライフスタイルについても意見交換会を実施。アートの理解し、気づきを今後の行動に変えていくプロジェクト

KARIYADO ART PROJECT②

人と植物が
一緒に育っていくことをめざす自由農園。

プランツアーティスト 岡井路子

ハーブを中心に生活に密着した植物を、数年かけて植えていく。

さまざまな分野で活躍する専門家たちが知恵を出し合い、地元の方々の力強い協力を得て、自由で画期的なハーブ畑を構想。

大量の植物を一気に植えるのではなく、「成り行き」を見守りながら、生活の中で活用できる植物を植え、地域内外の人のチカラでゼロからの畑を作るプロジェクト

KARIYADO ART PROJECT③

未来を描く
コンセプトアート。

アーティスト ワチャジャック

アーティストのナビゲートにより、仮宿プロジェクトに関わる人の想いを言語化。それらを詰め込んだ「世界観」を見える化し、イメージを共有をする。メンバーが制作物をそれぞれの感性・言葉で表現し、訪れる人にストーリーを伝える。仮宿内外の交流ツールとして活用することで、未来の姿を大勢の人に想像していただき、より多くの人々が仮宿まちづくりに、より多くの事業者が産業づくりに関わるきっかけとなることを目指すプロジェクト

KARIYADO ART PROJECT①

Mission

仮宿オリーブ産地化協議会メンバーが「アートプロジェクト」を理解する

Artist①

石神夏希

劇作家。1999年より演劇集団「ペピン結構設計」を中心に活動。

2002年『東京の米』にて第2回かながわ戯曲賞最優秀賞受賞。2004年、同作品にて東京国際芸術祭リージョナルシアターシリーズ出場。2005年 World Interplay2005（オーストラリア）参加。近年は横浜を拠点に国内各地や海外に滞在し、横浜・メルボルン・マニラで創作・上演した『ギブ・ミー・チョコレート！』（2015-2017）をはじめ都市やコミュニティを素材にサイトスペシフィックな演劇やアートプロジェクトを手がける。

概要

本パイロット事業受託者であるクレアファームメンバー及び藤枝市職員・地権者や住民が、アートプロジェクトの定義や考え方を学び理解を深めた。

メンバーとは異なる立ち位置にいるアーティストからの質問やコメントは、各人の様々な言葉を引き出した。従来の議論では取り上げていない地域の価値などを考える機会となり、この考えるプロセス自体がアーツカウンシルの果たす役割であることも理解できた。

KARIYADO ART PROJECT① 現地調査及び意見交換会

2月23日ディスカッション

出席者 石神夏希（アーティスト）、西村奥村（クレアファーム） 八木・伊藤（オリーブ協議会）

村山（藤枝市役所）神田（ワチャジャック）田嶋（ノイ/取材）鈴木（アーツカウンシル）

現地視察及び住民ヒアリング、全体ディスカッションを通して、アートプロジェクトに対する理解を深めた

①現地視察＆調査

石神氏を現地にお招きし、散策や街歩きしながら、地元民と交流やヒアリングの中で、「地域」をリサーチいただき、プロジェクトメンバーとともに仮宿の未来をイメージいただいた。言語化いただいた。

アーティストは初めて訪れる土地をどう捉えるのか、住民にとっては見慣れた風景を表現する言葉の一つ一つに興味深く耳を傾けた。

②アートプロジェクトの考え方について講演とディスカッション

石神氏による「アートプロジェクト」について講演。全国の先進事例や同氏が手がけた様々なプロジェクトについて

大変興味深い話をいただき、参加者の各自の感性も触発された。

その後、石神氏をファシリテーターとして、エリアの歴史やそこに住む人々のライフスタイルについて意見交換会を行った。

オリーブ事業が始まる以前のエリアについては、住民ならではの貴重な意見も多く聞かれ、大変有意義な時間となった。

特に、協議会は設立されてから5年経つが、その間にクレアファームや藤枝市職員が未だ聞いたことのない地元のエピソードは、アーティストが「協議会（地域・企業・行政の関係性）の外に位置づけられ、独立しているからこそ、引き出せる言葉であった。

このような機会を継続的に持つことで、アーティストがプロジェクトに関わる各人の立ち位置、参加意義をより明確にしていくものと確信した。

要旨

- （石神）なぜこの場所にオリーブの樹が植えられ、オリーブまちづくりが始まったのか、地域の歴史やここに住む人々をヒアリングしながら、プロジェクトメンバーとは少し離れた立ち位置でこのエリアを探ったら面白いのではないかと。
- （八木）オリーブ産地化事業としてクレアファームを迎える時も、様々な議論があった。このエリアの歴史は農業振興と紐づいている。50年前農業先進エリアとして田んぼ造成する際も様々な問題があり村は揉めた。今ここで言葉にしたいこともたくさんある。地元の人間はやや閉鎖的であるが、連帯感強い。
- （西村）クレアファームが初めて住民と向き合った時も、特殊な地域性を感じた。最終的に受け入れられてありがたい。
- （八木）10年ほど前から、田んぼを耕作する人が激減して、このままでは農業存続が難しい状態だった。仮宿地区地権者全員にヒアリングを行い、将来所有農地をどうしたいのか、確認作業を続けてきた。
- （西村）貸しても良いと賛同者が多く一番纏まっていたエリアが今のオリーブ園の場所だと聞いている
- （八木）そういう意味でも、地域活性については、これからも地元の気持ちを大事に、丁寧に進めていく必要がある
- （石神）関係者が初めて聞くような地域ストーリーがたくさん出た。こういう話を引き出せたことは興味深い。大人数ではなく個別訪問などで個人個人の話も聞いてみたい。新しい視点でこの地域のストーリーを紡いでみたい。

KARIYADO ART PROJECT① 現地調査及び意見交換会

(鈴木) 本アートプロジェクトで目指すもの
そこにあるものを活用して主体的な活動が集まり、それぞれが有機的に連動して活気づくことを目指している。
地元とのふれあいがあるコンテンツ提供」ということではなく、
上記のような動きによって生まれる活気ある「場」の力という点が売りだということを伝えるための言語化を模索したい。
各分野のプロの力も効果的に活用するが、地域やそこに集まる市井の人たちに主があることが大切であり、
だからこそ有機的な展開が生み出される。

石神氏とはその他、クレアファームメンバーとの複数回のリモート会議を通じて、長中期的な取組について意見交換を行った。
仮宿エリアでのこれまでとこれからに関する情緒的なイメージを伝え、共感を生むためのコンセプトづくりをどのように進めていくべきか、どのような言葉を綴り、物語となるか、共感を増幅させるための言葉と呼応する「絵本」「イラスト」「紙芝居」的な手法などの考え方についても教示いただいた。

メンバーにとっては、パイロット事業終了後を含めた中長期的な視点で「地域×アート」についての気づきや方向性につき深く考える機会となった。主体的に考え行動するため、アーツカウンシルの取組とアートプロジェクト（地域×アート）の定義や考え方、事業成果物のイメージづくりについて学ぶ機会を得た。



KARIYADO ART PROJECT②

Mission

オリーブ園エリアにある耕作放棄畑を活用し、
「アートプロジェクト～地域に根づいた自由農園」を生み出す。

Artist②

岡井路子 プランツアーティスト
ライフスタイルとしてのガーデニングを提唱する「マイ・ガーデニング・オフィス」を主宰。
暮らしの中で無理なく楽しめるおしゃれなガーデニングを提案。
NHKテレビほか各種メディアで活躍中。ガーデニングカウンセラーとして
全国各地の様々なまちづくりプロジェクトに関わっている。

概要

ハーブを中心に生活に密着した植物を、数年かけて植えていきながら、
人と植物が一緒に育っていくことをめざす自由農園。
プランツアーティスト・ガーデニングカウンセラーの岡井路子さんを中心に
さまざまな分野で活躍する専門家たちが知恵を出し合い、
地元の方々と意見交換しながら自由農園構想をまとめ、園設計に着手した。

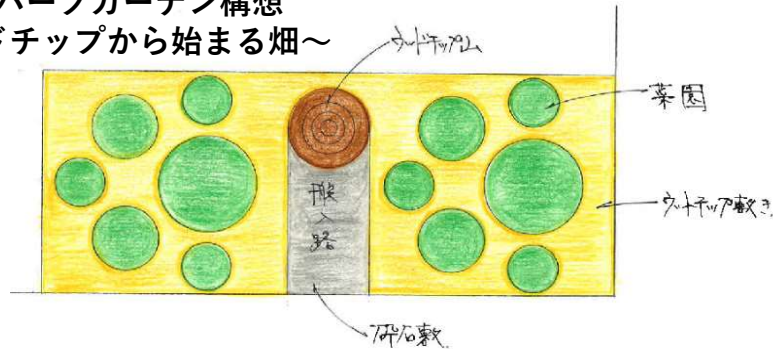
KARIYADO ART PROJECT② アーティストを交えての意見交換会 3月20日@仮宿公会堂&オリーブ畑

参加者

3月20日@仮宿公会堂および耕作放棄畑

アーティスト岡井路子、クレアファーム西村・奥村 CFふじのくに大石 良知樹園良知社長
ノイ田嶋代表、地権者伊藤 住民中野、竹下 アーツカウンシル鈴木、以上10名

仮宿ハーブガーデン構想 ～ウッドチップから始まる畑～



ディスカッション内容

2022年3月20日地域に根付いた自由農園としての「仮宿ハーブガーデン構想」について、アーティストと地元住民ほか関係メンバーによる意見交換が行われた。

- (岡井) 人が集まる中心場所の畑が、本事業の本質を体現する・住人の主体的な関わり
- (良知) まずはウッドチップなどの廃材を置いてみる・自由に広げ、
ハーブ等を植える場所を自然な流れで作る
- (中野) つくしが出ていたら、摘んで佃煮を作ろう
春になると自然界には小銭（食用野草）が落ちていると感じる
- (岡井) まずは自分でやってみて考えることが必要
台風や自然災害で全滅する可能性もある
4年かけて、自然との付き合い方を覚えていく
- (西村) カフェ、作業小屋、公会堂との連携
- (良知) 自然発生的に拡大
- (岡井) 植物や小道等が住民の手によって様々な隙間に展開していく
- (鈴木) 関心を持った人は誰でも関わるができる
住民や外部からの緩やかな関わり。関心を持った人であればだれでも参加でき、
地域内の住民であれば資材やハーブを“ぬすんで”自宅で使うことも可能



「地域に根づいた自由農園」 岡井路子さんの5つの提案

その1 「オリーブ畑」＋「菜園」＋「カフェ」 3つの要素を含む施設です。

その2 ハーブを中心に生活に密着した植物を、数年かけて植えていきながら、人と植物と一緒に育っていくことをめざしましょう。

●農園の成功・不成功を分ける「鍵」は、携わる人材の育成にあり！人も植物も、育つ時間が必要です。大急ぎで大量の植物を一気に植えるのではなく、「成り行き」を見守りながら、生活の中で活用できる植物を植えてゆきます。少なくとも4年にかかるかな？

●外国産のハーブだけに偏らず、フキ、ヨモギ、ノビル、ツクシ、ミョウガ等、昔からそこにはえていて、季節のおいしさを味わせてくれた植物も忘れずに植えましょう。自生する場所は、地元のみなさま、教えてくださいね。

●並行して、たとえば「アーティチョーク＋ムシトリナデシコ」など、新しい植物の組み合わせ（＊1）もおすすめてです。草間弥生さんのデザインを連想させる、コムギセンノウの「種ダンゴのドット植え」をはじめ、生活を楽しむ文化（＊2）の発信地になって欲しいのです。

●農園の作業の指導にあたっては、かならず「なぜならば」を添えて、「ストーンと腹に落ちる」解説を心がけます。理由を理解できれば、理解できた人は、次は教える人になれるのです。そうやって、教えられる人を増やしていきましょう。



（＊1）「アーティチョーク＋ムシトリナデシコ」の組み合わせ。アーティチョークの食べごろは、ムシトリナデシコのピンク色の花が咲く頃。ムシトリナデシコのピンク色の花が、アーティチョークの食べ頃を教えてくれる。

（＊2）「生活を楽しむ文化」＝「アート」だと思います。（岡井路子）

KARIYADO ART PROJECT② アーティストからの提案

その3 やりたい人がやりたいことをできるようにプランニングする。

- 地権者のみなさまをはじめ、周囲の方々に楽しんで関わっていただけるような場所に。「大人の砂場」のような遊び場のイメージで。



その4 カフェで活用できる花やハーブ、野菜などを年間を通して収穫できる
植栽プラン。

- 大量生産を目的としない（農家と競合しない）。見た目優先の一年草の花壇のような、植え替えありきの植栽プランではなく。カフェとつながる菜園に。



その5 あるものを使ってジャンプ！たとえば「竹林から生まれるアート」とか。

- 周辺の竹林を活用。たとえば竹ウッドチップを置いてみることから始める→もしかすると畑のパーティオになる。
- 地元のみなさまの技術や興味を生かして、竹で編んだ籠、ドーム等を制作。ワークショップ、販売にもつなげる。



KARIYADO ART PROJECT② 定植準備

3月24日～26日

参加者

大石・森（クレアファーム）良知（良知樹園） アーティスト岡井路子氏 ほか地域住民

伊藤（地権者） その他通りがかった地域住民含む総勢20名

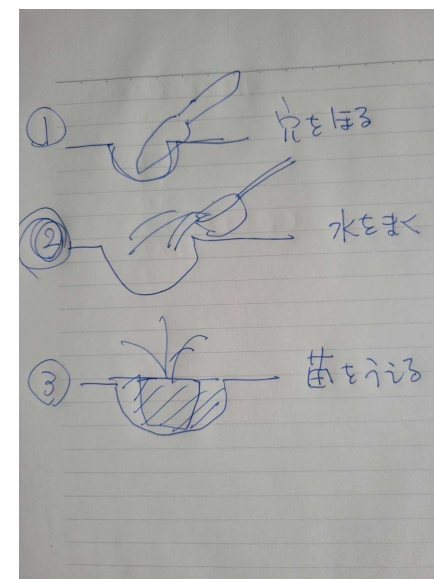
オリーブ園に咲いている野草株を確保。住民の自宅の庭にあるハーブや花なども候補として情報提供いただいた。

必要資材やウッドチップの調達を行った。

園芸素人、土地勘のない人のために、図解メモなどの連絡手段も飛び交った。

コトが動き出すと、関心を寄せる人が増え、自然発生的に園芸コミュニティが出来あがった。

※夏前までにハーブガーデンとして完成予定



KARIYADO ART PROJECT③

Mission

クレアファームが地域とともに目指す未来は、新たな仮宿オリーブ畑を中心に新たな産業（六次産業化）が生まれ、地元の人、訪れる人が、この地域の未来を創造できるようなコンセプトビジュアルを制作する。

Artist③

ワチャジャック所属アーティスト

神田 輝和 アートディレクター

竹澤 誠也 コンセプトアーティスト

コンセプトアーティストとして、大手ゲーム会社のフラグシップタイトル、イベント、映画、CM等、幅広くアート制作を手掛ける。

FINAL FANTASY VII REMAKE

Netflix バイオハザードインフィニットダークネス

概要

▶ コンセプトアートはディズニー・マーベル・ハリウッド発祥。

映画・ゲーム制作の初期行程で、監督の想い描く世界観・コンセプトをビジュアルで示す設計図の役割である。

ビジュアライズすることで、イメージーションを膨らませる道標となる。

仮宿プロジェクトに関わる人の想いを詰め込んだ「世界観」をアーティストがヒアリングしコンセプトペーパーを制作。更にアートで描き、見える化・イメージ共有をすることで、ここから生まれる未来への希望を表現する。

メンバーが制作物をそれぞれの感性・言葉で表現し、訪れる人ストーリー伝える。仮宿内外の交流ツールとして活用することで、この地に未来の姿を大勢の人に想像していただき、より多くの人々が仮宿まちづくりに、より多くの事業者が産業づくりに関わるきっかけとなることをアートプロジェクトの成果とする。

KARIYADO ART PROJECT③ 未来のまちをイメージ

1月17日ディスカッション

出席者 オリーブ協議会 八木会長ほか地権者10名 西村奥村（クレアファーム） 岩澤（サポーターズクラブ）
河原崎・村山（藤枝市役所）

アートプロジェクトの趣旨を理解し、これまでの議論を踏まえてコンセプトビジュアルのイメージについて議論した。

ディスカッション概要

（八木会長ほか地権者各人）

住民主体でやってみたいことオリーブで賑わう街づくり、新規就農に繋がる活動

- ・ 健康美容カルチャーやイベントで盛り上げる
- ・ 藤枝市民は。一家に一本オリーブ樹、マイツリー運動
- ・ 見学ルートに楽しいオブジェを
- ・ 大学等と連携してエリア周辺の農産物収穫体験
- ・ 植樹の募集
- ・ ファーマーズマーケットの設置
- ・ 近隣商業施設等のコラボ
- ・ 食育体験
- ・ 有機栽培農家グループとアドバイザーで関わる成澤氏（日本のトップレストランNARISAWA）とマッチング
このエリアの食材の素晴らしさを伝えたい

（河原崎）藤枝市としての様々なサポートが考えられる

地元の気持ちが大事。周辺エリアとも調整をはかっていく。

（西村）住民と共にある姿、地域企業との価値共創、持続可能なビジネスモデルを目指す



KARIYADO ART PROJECT③ キーワード抽出

2月1日ディスカッション

出席者 神田（ワチャジャック） 西村奥村尾崎（クレアファーム） 岩澤（サポーターズクラブ） 田嶋（ノイ）

コンセプトアートを理解し、仮宿プロジェクトが目指したい世界についてキーワードを作った。

ディスカッション概要

（神田）なんでもよいので、思いつくイメージをワードでどんどん出してください

（西村、奥村、岩澤、尾崎）
六次産業化、官民協働まちづくり、地権者、オリーブ、ニューヨーク国際コンクール入賞、ノアの箱舟、旧約聖書、健康、オリーブ缶詰、オリーブ瓶詰め、カフェ、ハーブガーデン、オリーブ産地化協議会、サポーターズクラブ、エディブルガーデン、オリーブ卵、オリーブ卵のバームクーヘン、オリーブ卵のプリン、オリーブ豚のハムソーセージ、オリーブ化粧品、キャンプ、レストラン、グランピング風レストラン、グリーンツーリズム、地元雇用、産業づくり、食と農のアンテナエリア、ファーマーズマーケット、キッチンカー、農村版ウーブンシティ、山と海、日本を代表するシェフ、世界一のバリスタプロデュースのコーヒー、地元企業とのコラボ、富士山クラフト食品、遊んで学ぶ、ワークショップ、地域文化、地域資源、農家ごはん、農福連携、田んぼアート、アーツカウンシル、アートプロジェクト、人が集う場としてのレストラン、場からコトが起きてモノができる、移住、Uターン就職、サステイナブル、アグリテック、焼津港、瀬戸屋、岡部玉露、大学や高校との連携、人づくり、オーガニックな暮らし、次世代ライフスタイル

（神田）各ステークホルダー伝えたいイメージを下記のように受け取った

【この場所に訪れる一般の方に】

- ・ オリーブから生まれる壮大な物語が、今始まる。
- ・ 藤枝（ココ）から生まれる、物語の予感。
- ・ 希望の鼓動が、聞こえてこないか？

【地権者・住民・学生の方】

- ・ 次の世代に紡ぐ、希望の街を一緒に。
- ・ 農業ってカッコいい。もうすぐ当たり前。

【シェフなどプロジェクトに関わる専門家に】

- ・ ここは、本物（ほんもの）が集まる

（西村）このアートを協議会メンバー当事者が向かうべき道を示すロードスターにしたい

KARIYADO ART PROJECT③ オリーブの樹から新しい産業が広がる様子を言語化

2月25日ディスカッション

出席者 神田・竹澤（ワチャジャック） 西村・奥村・尾崎（クレアファーム） 岩澤（サポーターズクラブ） 田嶋（ノイ）

前回（2月1日）イメージをより明確に共有した

ディスカッション概要

- （竹澤）中心で6次産業を生み出すオリーブの木が存在
- （西村）畜産（牛、鳥、豚、卵、チーズ）漁業（魚）別の農業（トマト）、周囲へコラボレーションの輪が広がる様子
食と農のアンテナエリア：この場所と関われば、誰でも新たな商品やサービスを生み出せるアライアンス
周辺観光との融和、玉露（お茶）の有名な産地、ちょっと足を伸ばせば、焼津の漁港、富士山
- （岩澤）若者とのコラボレーションによる、次世代の賑わい創出拠点へ、静岡大学、高校とのコラボレーション
- （奥村）オリーブの世界観・オリーブオイルは「世界の油のスタンダード」である
- （神田）日本から世界への広がり表現
- （竹澤）オリーブオイルは、食品に「香りをつける」ことで付加価値を生む
オリーブが周りに新たな「香り」や「彩り」を与える、カラフルな世界
- （奥村）オリーブの花言葉「平和」と「知恵」
- （神田）ここから始まる、未来への希望と、持続可能な平和な世界
- （尾崎）さまざまな分野のプロフェッショナルがここに集まり、知恵が融合され、新たな文化や世界が生まれる
- （西村）オリーブから始まるストーリー・何もなかったこの場所に、オリーブ畑ができた
オリーブの放つ熱量に、どこからともなく「ヒト」が集まった集まり
「ヒト」が集まったことで、交流が生まれ、団結を生み、新たな取り組み「コト」が今始まろうとしている
何もなかったこの場所から、どこにもなかった「ストーリー」がはじまろうとしている
- （竹澤）ここにしかない、誰も見たことのない、オリーブから始まる希望の物語、地権者各人がストーリーテラーに
- （西村）オリーブから始まる街づくりのイメージ
次の世代に残す「楽しい街づくり」「新たな産業づくり」
- （竹澤）この世界（まち）ができることで、上記ストーリーのように「ヒト」「コト」「産業」が生まれる
産業は雇用をうみ、賑わいをうみ、熱気に惹きつけられた次世代の若者が「楽しそう！」と集まってくる

KARIYADO ART PROJECT③ ラフイメージを見ながら意見交換

3月13日ディスカッション

出席者 神田・竹澤（ワチャジャック） 西村・奥村・尾崎・星野・青木（クレアフーム）

ラフ途中経過共有と樹の栽培方法や周囲の人々との関係性について意見交換を行った。

ディスカッション概要

（神田）この世界の色合いは？

（西村）オリーブから、多種多様なさまざまなコミュニケーションが生まれる

（竹澤）色んなジャンルに対する彩りの広がりを感じられるような、カラフルなイメージ
旧約聖書、ノア方舟等、神秘的なファンタジーの世界観を取り入れる

（竹澤）農園で実際作業される方に聞きたい、オリーブ作りの気をつけていることは？

（青木）木とよく対話する、木に向き合う、農薬は極力使わない、
丁寧に手入れする、大事に育てる 強い根を作ることで、大きくなる

（神田）その強いモチベーションはどこから？

（青木）僕らは儲けるためだけにオリーブをやっているわけではない。
この場所に人が集まる、笑顔あふれる 未来への希望を与えられる場所にしたい

（神田）関わりを持つ周囲の人たちに共通点は？

（西村）4年間という長い年月をかけて、たくさん語り合ってきた。
いつのまにか一体感醸成されている
誰もが他人事ではなく、「自分ごと」として情熱を持って取り組んでいる

（竹澤）なぜ、様々なジャンルのスペシャリストが集まってくるのか？

（西村）本物のオリーブオイルを作っている、本質的なことをやっていると共感されている
なぜか面白そうだから集まって、楽しく一緒に創造したい場所として見られる

（竹澤）地上からの視点で、どこからともなく、オリーブに集まってくる様子を見せる、
ここから生まれたものが、世界に羽ばたいていく様子を空に描く





世界観の説明は次頁に

3月27日ディスカッション

出席者 神田・竹澤（ワチャジャック）、西村奥村星野尾崎萩原（クレアファーム） 岩澤（サポーターズクラブ）

神田・竹澤 両氏より成果物の説明があり、ラフをベースに全体でディスカッションした。

ディスカッション概要

（神田・竹澤）

中心に聳え立つオリーブの木から、周囲の大地に活気と産業の広がりをもたらしている様子を描いた世界はクレアファーム及びオリーブ協議会から波及する新たな経済圏

オリーブの木の近くには、成長した街（作物型の建物等）を、離れていくと成長しきっていない（双葉等）を設置し、オリーブの木周辺から外部へ勢いを徐々に広げて行っている様子。

（奥村・星野）

オリーブがここにあったからこそ生まれた、他の産業とのつながりや関わりの創出が面白い。

- ・焼津の港で採れた魚との関わり（空飛ぶ魚の気球やイカの気球）
- ・地上に芽吹いた農作物（トマト、にんじん、大根等）
- ・オリーブから外の方角への新たな産業の広がりをイメージ

（西村）馬車はこの地域に存在しない、リヤカーとかの方がよいのでは？

（竹澤）異文化の人間を表現。異なる文化が入ってきて融合された新たな文化を作っていくイメージだ
オリーブの木とその周辺に生み出された活気に、外の人が魅せられ、集まってくる様子を、

（神田）右下の飛行線（燃料 はオリーブオイル）や、左下の山を走る車（キャラバン）で表現する

（西村）東京プロフェッショナルは高スキルを地方で活かす楽しみを持っている、プロ向けはどう表現するか

（竹澤）大人の遊び場を象徴的に表現するために、街の近くに公園の遊具を設置

（竹澤）オリーブの木を中心に、街の経済が循環し、周囲への潤いを与えている様子を、リング上の水の輪で表現。

オリーブの木の周辺にできた街には、オリーブオイルのパイプラインがつながり、生活に欠かせないインフラとなっている

（尾崎）地理関係は実際とは違うのか？袋井市上空あたりから撮った絵？

（神田）全体的な地形は、現実の静岡県に極力マッチさせ、
藤枝らしさ（蓮華寺池公園）や静岡らしさ（富士山・海山）を描いている

（萩原）地元で愛されている朝日稲荷、地元の発展を見守る神社の赤い鳥居を追加してほしい

4.アートプロジェクトの記録

目的

アーツカウンシルパイロット事業について記録し、アートプロジェクトに取り組むことで、住民や地域にどのような変化が起きたのか、パイロット事業期間中に仕掛けたことがどのような形で完成されていくのかを発信、今後静岡県内のアートプロジェクト促進につなげる。

内容

主要な会合に出席のうえ進捗を共有
本アートプロジェクトの進捗状況や成果物掲載したWEB、制作物のパネルやチラシなどの制作

制作

2月1日～3月28日

ウェブサイトのフレーム構築、各事業の進捗画像撮影

※ 当事業での取組によって見出した方向性に沿い、次年度にスタートする農園作業の出来事や、当事業を通じて新たな気づきや視点を得たメンバーのコメントなども追加掲載する予定。

